

令和7（2025）年度 家庭教育支援プログラム指導者研修⑤ 実施報告

実施日：令和7（2025）年9月3日（水）

6月から始まった「家庭教育支援プログラム指導者研修」の全日程が終了しました。最終回は、2回目となるファシリテーター演習を行いました。

○ グループワーク「家庭教育支援プログラムファシリテーター演習②」

総合教育センター職員
教育事務所ふれあい学習課職員

【午前の演習】

同じ地域から参加している方々でグループを編成し、「思春期版家庭教育支援プログラム」の再構成に取り組みました。今回は、プログラムのねらいや、参加者にどのような気付きを促したいかについて、班のメンバーとじっくり話し合ったうえで、プログラムの流れを検討しました。受講者の様子からは、共通の目的に向かって協力し合い、互いに高め合う“チーム”としての一体感が感じられました。



【午後の演習】

午前中に、再構成したプログラムを用いて、ファシリテーター演習を行いました。ファシリテーターとして、人前に立つことの緊張感があったかと思いますが、笑顔と穏やかな口調で進行することで、演習は和やかな空気の中で進みました。参加者の意見に共感を示す言葉かけや、意見交換がより活発になるような問いかけにより、活動の推進者（ファシリテーター）の役割を体験的に学ぶことができたようです。

プログラム実施後には、グループごとに良かった点を振り返る時間を設け、今後の活動に生かせる気付きを得ることができたようです。

閉講式では、受講者に修了証が授与され、5日間にわたる研修が無事終了しました。研修を修了された皆様には、研修で得た知識や技術、そして新たに築いた“つながり”を生かし、地域における「家庭教育支援プログラム」の指導者として、今後ますますのご活躍を期待しております。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・やはり皆さんがHappyで締めくくることが大切だと感じました。そして、場の雰囲気笑顔であればあるほどほぐれて、皆さんがアウトプットできるので、一番にそこを大切にしていこうと思いました。
- ・しっかりとプログラムの流れの確認や準備は必要だと思いますが、参加者の実態や様子を見ながら柔軟に対応することが大切だと感じました。
- ・本研修では、2回ファシリテーターとして演習を行いました。まだまだ経験不足な面もあり、思っていた通りに進行できない場面もありましたが、ファシリテーターの方々や参加者の積極的な姿勢もあって無事に終わることができました。実際の現場では、なかなか話が盛り上がらなかったり、テーマについてうまく話が伝わらなかったりするなどのトラブルも出てくると思います。打合せと事前準備をファシリテーター同士で入念に行い、ねらいのすり合わせも時間をかけて行う必要があると思いました。
- ・この研修で、ファシリテーションの難しさ、プログラム作成の難しさを知りました。また、参加者が幸せな気持ちで帰れるような時間をつくりたいとも思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp